

## 第11回林務部改革推進委員会

(日時・場所) 令和3年2月4日(木) 午前9時30分～11時00分

県庁西庁舎202号会議室(Web会議)

(構成員) 植木 達人 信州大学農学部教授

大久保 和孝 公認会計士

高橋 聖明 弁護士(委員長)

向山 孝一 KOA(株)取締役会長

### ○ あいさつ

(井出林務部長)

皆さんこんにちは。林務部長の井出でございます。

本日はお忙しい中、第11回目の林務部改革推進委員会にご出席をいただきまして、ありがとうございます。

年末年始の人の動きもございまして、本県でも新型コロナウイルス感染症が急激に増加をいたしました。県では、1月14日から2月3日まで「医療非常事態宣言」ということで、早期に新規陽性者を減少させるべく、部局の垣根を超えて全県で対策を実施したところでございます。

新型コロナウイルスの影響により、通常の仕事を通常のやり方で進めることが困難な状況もありますが、林務部といたしましては、芯を持った取組を推進できるよう、引き続きコンプライアンスの取組をベースとして業務に取り組んでまいります。皆様の専門的なお立場からのご意見をいただければありがたいと思っております。

さて、本日は、3点の大きな項目について、ご議論いただく予定となっております。

1点目は、今年度から取組を始めております「林務部コンプライアンス行動計画」についての進捗状況と林務部改革プロジェクトチームの活動報告をご説明させていただきます。

2点目は、大北森林組合が見直しをいたします、補助金等の返還計画及び事業経営計画についてでございます。この2つの計画は、経営分析や社会情勢により5年ごとに見直すことになっておりまして、現在組合で検証を行い、見直しを検討しているところでございますので、その方向性についてご説明をさせていただきます。

3点目は、大北森林組合に対する県の指導・支援の状況についてでございます。令和2年度の状況等についてご説明をさせていただきます。

林務部からの説明はなるべく短時間にさせていただいて、議論の時間を確保し、3項目について幅広い観点からご意見をいただければと思っております。

本日はよろしくお願いいたします。

### ○ 議事

(高橋委員長)

皆さんおはようございます。本日は第11回目の委員会となります。

新型コロナウイルスについては、県では医療非常事態宣言、国では緊急事態宣言が延長されるという状

況下で、皆さんご準備をありがとうございます。

本年度も林務部コンプライアンス行動計画に基づいて様々な取組がなされ、また、林務部改革プロジェクトチームの活動も更に充実し発展されてきたと伺っております。その報告を受けると共に、行動計画の取組等について、委員の皆様から忌憚のない意見をいただければと思います。

コンプライアンスの一層の推進を図って、県民の期待と信頼に応えられる県行政の一助になればと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

本日も新型コロナウイルス対応で Web 会議ですけれども、これが今後スタンダードになるのではないかと思います。よろしくお願いいたします。

それでは会議事項に入りたいと思います。初めに、議題の1ですが、林務部のコンプライアンスの取組状況についてご説明をお願いいたします。

○ 林務部コンプライアンス行動計画の進捗状況

資料1に基づき説明

(高橋委員長)

林務部改革プロジェクトチームの活動報告について引き続きお願いいたします。

○ 林務部改革プロジェクトチームの活動報告

資料2、資料2別冊に基づき説明

(高橋委員長)

はい。どうもありがとうございました。ただ今の説明、報告内容について、委員の皆様からご意見、ご質問をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

(向山委員)

古澤さんに質問があるのですが、聞こえますでしょうか。

(松本地域振興局 古澤)

はい。聞こえます。

(向山委員)

向山ですが、久しぶりです。

(松本地域振興局 古澤)

ご無沙汰しております。

(向山委員)

GOMという新しい取組を始めたという発表がありまして、大変興味深く聞かせてもらいました。ありがとうございます。いろいろな横断的な参加者が増えてきて、それぞれの皆さんが持っている自分たちの問

題そのものを問題として提起しながら自分たちで解決していこうという、非常に前向きな活動が始まったなと思って、大変興味深く聞かせてもらいました。もう一つは、IT の技術を使いながら非常に効率的に現状、あるいは現場の問題点を把握するという、新しい取組がこれからも定着していけばいいなと思いました。

GOM の事務局の役割を教えてくださいませんか。また、どういう方が事務局となって一つのプログラムを推進しているのか。要となる事務局の内容を教えてください。

(松本地域振興局 古澤)

事務局につきましては、私の他に4名おりました、この4名で運営しております。現地機関の者と県庁の者とそれぞれ配置しております、偏りの無いように運営しております。

(※事務局員数について後日確認したところ、正しくは6名)

(向山委員)

4名の方たちは、それぞれ違った部署に所属しているのですか。どのくらいの頻度で事務局として打合せをしていますか。毎日していますか。毎週ですか。

(松本地域振興局 古澤)

事務局につきましては、それぞれ違う業務についている方ばかりで、打合せにつきましては、事務局が違うので会えなかったりするので、メールでのやり取りが多いです。打合せの頻度につきましては、メールでのやり取りですので、随時やるという形をとっております。

(向山委員)

これまでこうした新しいプロジェクトチームを作って、手を挙げた皆さん達を中心にいよいよ始めようと、それからもう3年くらいになると思うんですけど、その中からこのGOMという、もう少し具体的に進んだ、また、自主的な問題提起をしながら自分たちで解決するというプログラムにもう一歩進んだという感じがして非常に期待をしているんですけど、要は、この辺のところは上手に事務局が機能して、参加者の皆さんの参加意欲が失われないような継続性・持続性のある運営を是非してもらいたいと思います。事務局が推進していく上での課題があったらいくつか教えてくださいませんか。

(松本地域振興局 古澤)

ありがとうございます。今我々の方でやっていく中で感じていることは、基本的にこのオープンミーティングというものは、自由に人が出入りできるような集まりになっておりますので、固定されたメンバーが集まりにくいので、毎回人が入れ替わったりすることがありまして、議論が元に戻ってしまったりということがあります。こういったところの進め方を考えていかなければと思ったりすることがあります。

(向山委員)

多分こういった形で今まで県庁の中で、いろいろなプロジェクトが動いていたと思いますが、単に出てきた皆さんが問題・課題を出し合うという、これだけで終わってしまったらもったいないと思います。この問題提起されたものをどのように具体的に解決していくかという、それについても多分優先順位を付

けなければならないし、1年で解決していくことになじむ課題もあれば、2年や3年かかってやらなければいけないと、そういういくつかの問題もあると思うので、是非事務局がこの GOM の運営をどのようにしていきながら、そこからここで目指している、みんながどうせ解決するなら明るく楽しく前向きにやろうじゃないかという、雰囲気を持続できるような事務局運営が、皆さんの手腕がすごく求められていると思うので、いろいろな意味で、民間の方は同じように多くの課題を抱えながら事務局がまさにそこを苦労しながらいくつかの解決を図っていますので、是非またいろいろな意味で、民間の方で事務局の運営について参考になることがあれば、僕らも一緒になってお手伝いできると思うので、また展開してもらえればありがたいと思います。

(松本地域振興局 古澤)

ありがとうございます。そのような展開ができる面白いなと思いますので、是非よろしく願います。

(向山委員)

はい。頑張ってください。大変有意義なことが始まってこれから楽しくなりそうですので、よろしく願います。

資料ですが、1枚1枚にこんなに大きな字で書いてもらえるのはありがたいですが、こんなにバラバラにしなければいけませんか。本日お伝えしたいこと、GOMとは何か、みんな1枚1枚で。民間でこれやると紙がもったいないと言われますよ。皆さんの方はあまりコストを意識しないせいか、どんどん紙を使うけれども、ITになってゴミがなくなるとは思いますけど益々ゴミが増えるね。そのへんも改善の余地がありそうなので、また考えてみてください。

(松本地域振興局 古澤)

はい。プレゼンの内容と配布資料は少し考えたいと思います。

(向山委員)

以上です。

(高橋委員長)

他の委員の皆さんはいかがですか。

(大久保委員)

よろしいですか。どうも報告ありがとうございました。細かいことを言えばいくつかありますが、その中から関心がある2つのテーマについてお聞きします。一つはGOM、面白い取り組みで是非やっていただきたいですし、向山委員が仰るとおり、しっかり継続できるような仕組みをと思うのですが、敢えて批判ではなくて、前に進めていくという趣旨でお聞きしますけれど、これはやろうとしていることは非常に面白いのですが、結局これはどういうふうを活用していくのか、何を狙っているのですか。

(松本地域振興局 古澤)

はい。ありがとうございます。GISにつきましては、冒頭でお伝えしましたとおり、行政施策での意思決定の支援ツールになると考えておりますので、まず皆さんがGISを上手く使いこなしていただけるように基盤を作っていけないといけないと思っております。実はこのGIS自体は普及している状態では全くない状況でして、まずはGISが普及するための基盤づくりをするというのが、今後しばらくの課題となっています。

(大久保委員)

そこで大事なのが、実は今、民間企業もこのデジタル化ということが遅れています。民間企業の発想も、私も多くの上場企業の取締役をやっていて感じているんですが、本当にデジタルに対しての意識が旧態依然としています。要は何かというと、例えばRPAだとか、いわゆる業務の効率化だとか、こういうシステムだとか仕組みを入れるという話になるんですね。これは否定はしませんが、従来の延長でやっておいてくれればいいのではないかと。今、時代が変革してきてデジタルが企業を変革させるといった時に大事なのは、デジタルイゼーションです。よく調べていただいたら良いと思います。デジタルイゼーションではなくてデジタルイゼーション。要は、業務の在り方を抜本的に見直す視点が必要になります。何が言いたいかというと、パラレルで考えていかないと、元々こういうのに疎い行政現場の中に入れていくということはすごく素敵だと思います。ただ、せっかくここまで来たので、出口を先に考えてシステム設計をしていかないと、あるものを集めてきて可視化しました、ではおそらく付加価値はものすごく生みにくいと思います。最近よく言われているデータの利活用という言葉がありますが、ここで得られた情報を何に使用したいのか、この議論を先にすべきだと思います。一番多くの組織が失敗するのが、「これからお客様に付加価値のあるデータを提供したいんです。そのためには、わが社にあるデータを一元化することからまず始めるんです。従って、皆さんデータの一元化に協力してください。」と言いますが、このアプローチを取っている限りは、必ず失敗すると思います。私は現場を見てきて良くわかりました。何が足りないかというと、そのデータをどう使いたいのかという設計思想が先に必要です。その思想があった時に実現する手段としてデータを一元化するかどうかというのはプラットフォームの問題です。更に足りないデータがあれば、どう補足していくのか。林務の世界であれば、センシング技術が必要になってきたり、いろいろな技術が必要になってきて、インプットデータも必要になるでしょう。ただ、せっかく若い世代の皆さんが議論するのであれば、こういう物を使って何を実現したいのか。今皆さんが直面している業務をどう変えたいのか。その議論が先にあるべきではないのかと。それを実現していくときにこのGISなりGOMなりのプロジェクトが存在するのだと。これが無いままやってみると、ただの自己満足のシステムを作って終わりだということになりかねないと思います。残念ながら日本の多くの企業がこの実態で、世界の遅れをとっている現実がそこにあるのですが、何が言いたいかというと、民間すらできていないというのが現実ですけど、時代が変わっています。やはり皆さんの業務をどうしたいのか、まず像を描いたらどうでしょうか。そしてそれが現実テクノロジーを使ってできるかどうかということ当てはめていき、その中で一つ一つのパートをどう進捗していくのか。そこに初めてオープンソースの中でこういったツールが使える、ああいったツールが使える、こんなのを作ったらおもしろいよね。そんな議論がこのシステムを見て僕はできるのではないのかなと。せっかくこの基盤を作ったので、ここを一つの武器としながら、皆さんの何の業務を変えていくのかを先に議論して、それからもう1回バックキャストして戻ってどうやってくのかというのをやっていかないと、恐らくレームダックというか、行き詰って付加価値を何も生み出さないシステムに終わると、私は一番残念だなと思うので、是非そういった価値を創造していた

できればと思います。

それからもう一つ、先ほどお答えいただいたのは、佐久のどなたでしたっけ。

(佐久地域振興局 黒坂)

佐久の黒坂と申します。

(大久保委員)

黒坂さんでしたね。取組は良いですし、是非こういうのを進めていただければと思うのですが、黒坂さん自身は何のためにコンプライアンスをやっているんですか。周りに何でこんなことをやっているんだと聞かれたときに、どのように説明しますか。

(佐久地域振興局 黒坂)

林務部として大北森林組合の問題があり、一つの要因としては、課や係の共有ができていなかった部分があるので、係、課そして林務部全体として何かを共有できるように、少しずつでも見直していくということでコンプライアンスをやっていくと思っています。

(大久保委員)

何のために情報共有はするんですか。というようなことを、とある部下が言ってきたときに黒坂さんはどう答えますか。いじわるな部下を想像してくださいね。

(佐久地域振興局 黒坂)

お互いのコミュニケーションをとる場、隣の席の人がやっている業務など、お互いの業務を把握できていないこともあるので。

(大久保委員)

では何でお互いが把握する必要があるんですか。

(佐久地域振興局 黒坂)

林務部として様々な業務がありますが、他人事と捉えず、自分事としてとらえるきっかけとなればと思います。

(大久保委員)

はい。ありがとうございます。

今のご返答が象徴しているのですが、大事なことは2つあると思います。まず、そろそろ不祥事に反省するフェーズをやめませんか。僕はそろそろ次のフェーズに向かって未来に繋げていくという視点に切り替えたほうが良いと思います。不祥事があったからコンプライアンスをやる、補助金不正があったからやる、県として取り組んでいるからやる、恐らくもう不祥事から数年経っているでしょうし、私はもう卒業して良いと思いますね。何のためにやるのかということはもう1回再構築して。普通これは黒坂さんのような立場の方に言うのではなくて、いつも私は部長級の方々に質問していますが、また、今後やろう

と思っていますけれど、やはり課長以上の幹部です。課長以上の人達がきちんと説明できているかということですね。黒坂さんやここにおられるメンバーは、選ばれしメンバーで、林務部の若手職員の中でもこういうことに問題意識を持ってやっている方ですね。そういう方でもやはりそういう発言が出てしまうということが実態だと思います。この後コンセプトを作りますと冒頭に事務局から説明がありましたけれども、私はやはり何のためにコンプライアンスをやるのかということ、今日そこにいらっしゃる課長さんが語れますかということだと思います。いやいや不祥事の為ですからと、県民の信頼の為ですからと、全然意味がわからないことを言ってもしょうがないと思います。やはり自分たちが何のためにコンプライアンスに取り組むのか。県民の信頼とは一体何なのか。どういう信頼を取っていきたいのか。自分たちの事業のために何をやりたいのか。例えば、情報共有一つにしても、確かに可視化しなければいけないというのは結果論としてそうですが、大事なことは限られた人数の中で目的達成のためにチームで実現していくということですね。それがまた役所の組織でもある訳です。一匹狼で一人で頑張るぞという世界ではなくて、みんなで力を合わせてやっていく、そういう未来の方向に向いていくような志向に私は持ったほうが良いのではと思っています。そういう意味では黒坂さんには申し訳なかったですけど、まずは課長クラスの皆さんには現場にいたらやりたかったです。

それから2つ目は、やはりご発言のところもそうですけれど、私は最近すごく言っているのが「言葉の力」なんですよ。言葉で伝えていくということをやっけないと、なかなか人には共有とか可視化というのはできないと思います。チームワークも編成できないと思います。言葉の力を付けるためには、訓練しか残念ながらありません。訓練すれば上達していきます。やはりコロナの中で、私は多くの企業の経営側の中に入って見てきて、どういう組織が強いかということは、中間管理職がきちんと自分の言葉でパッションを持って語れる組織です。そのためには言語が整理されていなければいけません。ですから、このプロジェクト一つにしてもそうですけれども、きちんと相手になるほどと思うような言葉を並べるべきだと思います。その時に論理的矛盾は回避すべきです。私も大企業の審査委員をやっていて、超大企業が膨大な資料を揃えてきて、担当の女性役員の方が延々と説明していましたけれど、私にはまったく理解ができませんでした。「ダイバシティが企業価値を生み多様性の時代の中で生き残って持続的な社会を作るんだ。」と。意味不明だと思いませんか。何でダイバシティが企業価値を生み出すのかもよくわかりませんし、企業価値を生み出したことが何で社会に貢献するのも全然意味がわかりませんでした。要は何が言いたいかという、言葉が腹落ちしていない。きれいな言葉を一瞬間いてみるほどと思うようなことを言っている。言葉遊びではなくて、部下、チームそれからもつと言うと地域を取りまとめていくために重要なのは、メッセージ性をしっかり持つということだと思います。これは黒坂さんだけのテーマではなくて、前半の説明にも入っていくのですが、「地域や住民と課題を話し合う」とあるんですけど、課題を話し合うということは、得てすると、よっぽどファシリテーターがしっかりしなければ文句を言って終わります。むしろそうではなくて、批判より提案を、そして抽象的より具体的な提案へということ、私は最近モットーで言っていますが、どういう街づくりをしていくのかということ、しっかりビジョンで5年先10年先を議論するステージから課題を出していかないと、今の問題点をいくら上げへつらっても何も前に進まないのではないのかと。特に地域住民との対話の中では、是非そんなことも組み込んでいただければなと思います。そういう意味で二つあるのが、前半で事務局が仰っていただいたこれからコンセプト、ビジョンを考えるのであれば、まさになぜコンプライアンスをやっているのか、なぜ林務部改革をやっているのか、これを黒坂さんクラスの方が腹落ちして理解できる環境を管理職が作り上げていく義務が私はあると思っています。2点目は、先ほど申し上げた言葉の力というものをもう少し大事

に使っていったほうがいいと思いますので、上司部下との10n1ミーティングもそうです。いろいろな対応の中でもそうです。言葉というものをしっかり使い分けていくトレーニングを意識していただければと思います。

以上です。

(高橋委員長)

はい。ありがとうございました。

植木委員聞こえますか。

(植木委員)

はい。よろしくお願いします。

会議のメインマイクがどうもうまく聞こえなくて、聞き取りにくかったのですが、今の流れからだいたい推測しながら私の意見と申しますか感想を述べさせていただきます。実はこの1年間いろいろ現場を見ながら、あるいは、地域の人達と話をしながら感じたことですがけれども、林務部の人達の評価は徐々に上がってきているように私は実感しています。職員が地域住民の要求に応えるというところでそこそこ頑張りつつあるなど。ただ頑張りつつですし、私の感触も全てではなく私が接触した部分での話です。何とも言えませんし、その中で地域をまとめるということにも住民から少しずつ評価が高いということは、私は実感として感じております。徐々にコンプライアンス行動計画が少しずつではあるけれども私は評価したいなというふうに思っています。この1年間、現場で感じたことです。

今日のGOMの話もあったのですが、素晴らしいなと聞いておりました、やはり若手の成長というのが中堅職員への刺激にもなっているのかなと。そんなところで、例えば、今回のモチベーションの向上の中でも、放置竹林の課題だとか、「森に通うためのハンドブック」だとか、例えば放置竹林の課題だと、実際に行って話を聞いてみると非常に面白い。更に商品開発まで地域の人達でやってしまう流れであったり、それに、森に通うためのハンドブックは、見ていて非常に面白いですね。山のことをあまり知らない人たちでもこのハンドブックがあると、山に行ってみようかなと。そうすることによって山の仕事あるいは技術の難しさや、環境問題にまで触れることができるなど。こういうことが出てきているのは、私自身は非常に評価しております。

今日のGISの話も基本的なツールだと思っています。例えば、我々が森林施業をやる場合、あるいは地域計画を立てる場合には、やはりGISはこれからは必須なものだと思っていますし、大久保委員が仰ったように、ではなぜ使うのかというような基本的な部分はしっかり捉えていかなければならないとは思いますが、今や当たり前前のツール・技術として職員は持つべきだと思っています。私はある意味良いタイミングと申しまして、しかも若い人たちはこの辺の技術をぱっと吸収できると思いますので、このようなことで地域住民と語り合い、そして、地域の将来を展望していくというようなところに上手く使えるツールとして今後も勉強して行ってほしいと思います。

職員の主体性ですとか、多様性という問題が尊重される組織は非常に重要だと私は思っています。そのことが組織力を高めていくのではないかと。特に主体性は自らやっていくのだと。そのことが周りに影響し、そして、地域の人達と一緒にやっていく原動力になっていくと思いますし、いろいろな考えがあってもいいと思います。それを受け入れる許容さ寛容さがあることによって組織力が強まっていくのだらうと思っています。そういう意味では、私は今日はプラス評価をして終わります。ただ1点言うなれば、適

正な事業確保をするんだと。適正とは何なのか。以前にも話したかと思うのですが、非効率とは何なのかというような、言葉一つ一つが遊ばないようにきちんとした議論をして、そのことを咀嚼した上で言葉を使ってほしいなと思います。恐らくやっていらっしゃるのだとは思いますが、ややもすると抽象的な言葉というものは、それだけでも納得してしまうようなことがあり得るので、それを具体的に議論することから始めて、主体性・多様性というものを尊重しながらやっていける組織であってほしいと願っています。

以上です。

(高橋委員長)

はい。どうもありがとうございます。

皆さん貴重な意見をありがとうございました。

私からも、先ほど植木委員も指摘されましたけれど、林務部に対する信頼というのは、だんだん回復されてきているのかなという印象があります。マスコミのトーンも以前と大分変わっていると思います。それは、ここ数年の林務部のコンプライアンスのご努力の成果だと思います。プロジェクトチームの明るく楽しく前向きにというのは、非常に良いフレーズで、ポジティブ思考が一番大事だと思います。

大久保委員が指摘されたフェーズ1からフェーズ2に向かうということですが、不祥事の対応としてのコンプライアンスではなくて、林務部が、長野県の森林整備を担うのだというビジョン、目的、それはSDGsでもゼロカーボンにも適合するわけですから、これを最大のビジョンとして熱くポジティブにやってほしい、今後も続けてほしいというのが一つです。

それと、GOMの専門部会のことですが、GISとICTの勉強会をされていると思うのですが、私も昔スウェーデンに行って、林業機械がものすごく活躍しているのを見て感動しました。一瞬で一本の木が丸太になってしまう、山があらとは違って非常に急峻で林業機械が入りづらいなどいろいろな事情があるかもしれませんが、最近の土木事業を見ていると、私も、とある企業の役員をしていて、ICT建機というのはこれから標準になる、既に堤防工事には導入されていますので、先取りをして、本当に長野県の事業体がICTの林業機械で動き出すということに私は夢見ているのですけれど、是非この勉強会を充実していただきたいと思います。

以上です。

この議題についてはよろしいですかね。次の議題ですけど、4と5を一緒にということで、4の大北森林組合の事業経営計画及び補助金等返還計画の見直しについてと、5の大北森林組合に対する県の指導・支援の状況について、続けてご報告させていただいて、その後で委員の皆様から意見・質問をいただきたいと思います。

○ 大北森林組合の事業経営計画及び補助金等返還計画の見直しについて

資料3に基づき説明

○ 大北森林組合に対する県の指導・支援の状況について

資料4に基づき説明

(高橋委員長)

向山委員お願いします。

(向山委員)

はい。説明ありがとうございました。

細かいことは資料に書かれていますので、まず、今の大北森林組合の組合長の元での現場の方々の意識、モラルはどうでしょうか。計画どおりの進捗状況ということで、数字の面はここにかいてあるということで、また、返還も計画どおり進んでいるということで、次の5か年がまた始まるということですが、新しい組合長の下での現場での仕事に対する指揮、モラルというのは今どのような状況になっているか聞かせてください。

(飯田信州の木活用課長)

はい。私も大北森林組合に行かせてもらっていますし、当課の方で常日頃から大北森林組合へ出向きまして、指導させていただいている職員もおります。そういった方と話をしていると、非常に現場で働いている人たちは前向きに取り組んでいます。そういった雰囲気もあってか、この5年間で現場の職員も増えていきますし、大北森林組合の職員と県庁の職員とともに現場を見ながら職場の雰囲気を感じた上で就職を決めていただいているというところがございますので、問題が発覚した時と比べると全然違う雰囲気になってきていると感じています。

(向山委員)

コロナウイルスのことがあるので、以前のようにはいかないかもしれませんが、当初からこの林務部改革推進委員会に求められたことが、現場の森林組合のコミュニケーションと同時に、森林組合と林務部との間のコミュニケーションが大きな課題の一つであるという点で、こういった委員会が発足したということになっていると思いますが、なかなか三密で以前のようにはいかないとは思いますが、是非、林務部と森林組合との間の良い信頼関係が、こういったことを通じて出来上がっていけば良いなと思っていますので、引き続き現場を大事にいただければと思います。

以上です。

(高橋委員長)

はい。ありがとうございます。

大久保委員いかがでしょうか。

(大久保委員)

特に私からはありません。引き続き頑張っていたきたいと思います。

(高橋委員長)

はい。ありがとうございます。

植木委員いかがでしょうか。

(植木委員)

はい。説明ありがとうございました。

大北森林組合の経営改善というところで進めてきているのだとは思いますが、特に森林整備事業というのは森林組合の根幹をなす部分です。資料3にも書いてありますが、結果的には職員が半減したことによって森林施業団地の設置が進まなかったり、公共事業の受注ができなかったりというような話があるというのですが、このように書かれてしまえばそれまでですけど、要は知りたいのは、こういったなかなか進まない、あるいは、職員が半減するというような中であって、どういう議論がなされてどのように改善しようとしたのかということが大事だと思います。それによって職員の増員戦略がどのようなものなのかということが明確にされていかなければ、いつまでたってもずるずる行くような気がしてなりません。その辺はどのようにお考えなのかということと、それから説明の冒頭のところで、長野県18森林組合があるというところにおいて、大北森林組合は優良組合であると位置付けられるという説明があったのですが、その根拠はどのようなところなのかということと併せて説明していただければと思っております。令和2年の事業量を見ると大体落ちていますね。特に重要と思われる部分が落ちていて、なかなかこの傾向が右肩上がりになってこないということもあって、更に人も減ってきてということになると、聞いていると気になるところではあります。回答できることがあれば教えてください。

(高橋委員長)

はい。ありがとうございます。

説明をお願いします。

(飯田信州の木活用課長)

ありがとうございました。

森林整備事業が根幹だということは、仰るとおりでございます。我々もそこを抜きに森林組合というのは語ってはいけない部分があるのかもしれませんが、優良と言わせていただいたのは、語弊があったら申し訳ありませんが、事業利益がしっかり上がっていて、実は事業利益の額も全国平均よりも上で県内18森林組合のなかでも一桁番手で上位ということでございまして、そういう意味で優良という言葉を使わせていただきました。

実際に職員が減少したこととか、団地化が進まないとか、公共事業が進まないとかということに対して、どういった議論がなされてどのようにしていくつもりなのかということとございまして、森林施業団地を造るためには、所有者の同意ですとか境界の確定ですとか行う必要がありますし、所有者の把握から始まる場合もございまして、非常に手間暇がかかる林業全体の課題でございまして、そういったところに職員を割けないという悩みというところと、公共事業の受注につきましては、資格を持った専任の技術者が常駐するということが必要になってきますので、組合からも苦勞をしているという話を聞いております。そういう意味でも新しく入られる方ですとか、現場の職員から内業に移っていただく方ですとかが持っている資格などを活かしながらやっていくという改善策を提案しています。

(植木委員)

はい。ありがとうございます。

優良の意味はわかりました。事業利益が上がっているところであるということで、果たして森林組合の使命等を考えた場合に、こういった一元的な見方で良いのかという、森林組合が地域にもたらす役割はい

ろいろありまして、その中で事業の内容を見ると果たして優良といえるのかと。まだ森林組合の分析は進んでいないとは思いますが、やはり私自身の見方とすれば、まだまだ大北森林組合は頑張らないといけないう気持ちでいます。今後の計画においても結果的には職員の増員に取り組む中で、森林整備事業だとか様々な事業を展開していきたいということなので、職員の増員の戦略というのは今どのようにお考えなのかということをお聞かせいただければと思います。

(飯田信州の木活用課長)

資料4の5頁に、見込みではありますけれども人材育成ということで、令和3年度から2名、令和5年度に1名追加というような青写真を描いてリクルート活動に取り組んでいただいているということでございまして、令和3年度についてはほぼ確定しておりますが、それ以降の人員の増員に向けましては、我々の事業でやっております就職説明会には、大北森林組合は積極的に参加してもらっていますし、ブースを覗いてみますと、人が訪れて話を聞いている姿が見受けられますので、そういったところから人員を確保していただきたいというような気持ちでおります。

(植木委員)

はい。ありがとうございます。

計画としては令和3年度2名、令和5年度1名という計画があるということですが、要は大北森林組合が受けたダメージを回復するためにはどうしたらいいのか。そのためには信頼によって新たな人材が参入してくるといようなことに繋がっていくと思います。その場合大事なのは、大北森林組合の将来のビジョンがある程度明確にあって、そのことを人材育成に上手く反映させて、魅力ある森林組合として訴えていくということが一方に無ければ、なかなか難しいと思っています。大北森林組合の将来ビジョンを含めた明確さが欲しいということが私としての意見ですが、このへんのことも踏まえて人材確保をしてほしいと思います。

どうもありがとうございました。

(高橋委員長)

はい。ありがとうございます。

私からもひとつだけ。森林整備がいわゆるコアビジネスであることは承知していますが、多角的な事業展開で少なくとも計画どおりの返済がなされたということは、私としては予想外と言えば語弊がありますがけれども、非常に素晴らしいことだと思っています。もっとコアビジネスのところが大きければよかったのかもしれませんが、結論とすれば計画どおりの返済ができたわけですので、一つの目的は達成できたのかと。次期の5年計画について、人材確保が2名できていることについて、このこともこのご時世・時期にもかかわらず素晴らしいと思いますので、次の計画では損害賠償金も入ってくるかと思っておりますけれども、返済計画が予定どおり進むように皆さんの更なるご指導をお願いします。

それではよろしいでしょうか。これで議題は終えまして、最後のその他ですが、委員の皆様から何かありますでしょうか。

(大久保委員)

特にないです。

(植木委員)

特にないです。

(高橋委員長)

事務局から何かありますか。よろしいですか。

(井出林務部長)

さきほどの「森ハン」ですが、どうぞ本物をお持ちになってご覧ください。

森に行くためのハンドブックということで、今年作らせていただきました。

(高橋委員長)

ありがとうございました。

Web参加の委員へは別途送ってください。

それでは以上で本日の会議事項を終了します。貴重な意見等を本日もいただいたと思いますので、その意見を踏まえて検討をお願いします。

では、事務局に進行をお返しいたします。

(井出林務部長)

はい。どうもありがとうございました。

本日は様々な観点から意見を頂戴いたしました。私どもも、県民のために林務部としても最高のサービスを提供していきたいと考えておりました、そのためにも信頼される組織でなければいけないと思っております。それを前提とした上で、働く私たちが明るく楽しくいきいきと仕事ができるということも大事でありますので、このようなことも考えながらまた取り組んでまいりたいと思っております。

本日はどうもありがとうございました。